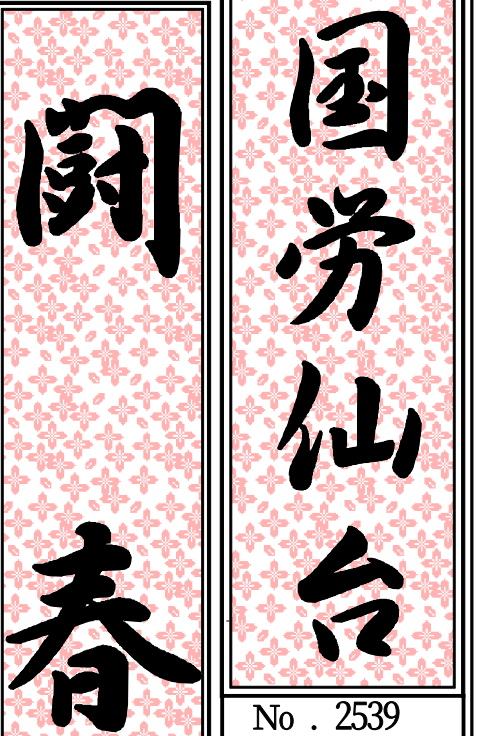


# 政治解決実現に向け総団結を



## 諸課題の前進に向け奮闘しよう



No. 2539  
2009年1月1日  
発行責任者 橋本 昭二  
編集責任者 武田 昌仙

仙台地方本部  
橋本執行委員長



2009年を迎え、組合員とご家族の皆さんに、新春のお慶びを申し上げます。干支も「子」から「丑」に引き継がれ、新たな気持ちで一年間の奮闘を決意しています。今日まで積み上げてきた団結と取り組みの実績を、しっかりと継続していかなければなりません。

昨年は、国鉄「分割・民営化」と採用差別から22年が経過しようとしている中で、23年目を迎えることなく、何としても年度内に解決しなければならぬという意志統一に基づき、国会議員要請や意見書採択、単産オクルグや物資販売等、様々な取り組みを強化してきた一年でした。

その結果、支援して頂いている共闘の皆さんに、この闘いを風化させることなく、早期解決を求める集会

を各地で開催して頂きました。その力が10・24中央集会に結集され、あらためて早期解決を求める世論を示すことができたが、司法手続上の日程が定められていることや、政治が停滞していること等、厳しい現状であることも認識し、困難を乗り越える団結強化と、運動の実践が求められています。

今年3月には、鉄建公団訴訟控訴審の判決が予定され、一定の結論が示される状況にあります。解決まで待てなかった故菅原次男氏の意志をしっかりと受け継ぎ、精一杯の取り組みをし、解決を実現しましょう。

次に、安全輸送と健全な労使関係の確立についてです。昨年は誠に残念なことに、グループ会社の社員の死亡事故や、大きな輸送障害などが多発し、9月には非常事態宣言を出さなければならぬ状況でした。

このことは、鉄道を利用されるお客さまに、不安を与えるばかりか、働く者の不安を増大させてしまうものなのです。一つひとつの事故原因の究明と分析、対策の確立だけでは対応しきれなくなっていると考えられま

す。システムやメンテナンス体制の中に潜む問題をしっかりと議論し、対応していかなければならないと思います。安全な輸送体制を確立し、安心というサービスを提供することが、健全経営の柱になっていかなければなりません。そのためには、健全な労使関係の確立が不可欠であることを、強く訴えるものであります。

JR東日本では、06年11月に一括和解が成立し、全事件の解決により、公平・公正な人事・労務管理を行うこととなりましたが、その内容が職場末端まで周知徹底されないことから、差別が無くなったという実感がなく、あらためて実態を調査し、改善を求めてきました。しかし、認識が一致することなく、人事・労務管理業務への関わり方の見直しを求め、中労委にあっせん申請を行いました。

JR貨物では、昨年3月に和解が成立し、健全で良好な労使関係の確立と、公平・公正な人事・労務管理をすることになりました。しかし、和解したからといって、すぐに職場が変わるものではありません。和解をあらたな闘いのスタートとして、職場で和解を実感できるように、取り組んでいかなければなりません。

JR東でも、JR貨物でも共通しているのは、差別する側も、差別される側も、20数年間の差別になれてしまいい、それが当たり前になってしまっているのではないかと思います。まだまだ職場に残っている差別に真剣に立ち向かっていかなければなりません。職場に差別が残っている限り、健全な労使関係

の確立はできません。私たちのもう一つの大きな課題は組織拡大です。昨年の大会以降3名の仲間が加入し、大きな力と活力を頂きました。この活力をバネとして、各支部・分会で次々と拡大していこうではありませんか。「一企業一組合」施策は終焉し、多数組合が会社との対立を深めている状況です。私達国労が職場の中心となって、拡大を実現させましょう。

09春闘は、経済危機という厳しい情勢の中で闘われますが、しっかりと要求を掲げ、その実現に向け職場・地域から奮闘しなければなりません。とりわけ、7年連続の黒字決算をしながらも、9年連続ベアゼロに抑えられてきた、貨物の賃金引き上げを、労資一体となつて何としても実現しなければなりません。

今年は間違いなく解散総選挙が行われる状況にあります。今の政治経済を見れば、どこから見ても政権交代が求められています。反自民を明確にし、革新政党の躍進のために、一人ひとりの組合員と家族が投票行動に参加しましょう。そのことが、採用差別事件の解決に大きく影響することは間違いありません。

皆さんの一年間のご多幸を願い、総団結によって諸課題の前進を勝ち取るために、地方本部が先頭に立ち、奮闘する決意を申し上げます。新年の挨拶といたします。

宮城県支部  
秋山執行委員長  
あけましておめでとございます。

私達たちのもう一つの大きな課題は組織拡大です。昨年の大会以降3名の仲間が加入し、大きな力と活力を頂きました。この活力をバネとして、各支部・分会で次々と拡大していこうではありませんか。「一企業一組合」施策は終焉し、多数組合が会社との対立を深めている状況です。私達国労が職場の中心となって、拡大を実現させましょう。

09春闘は、経済危機という厳しい情勢の中で闘われますが、しっかりと要求を掲げ、その実現に向け職場・地域から奮闘しなければなりません。とりわけ、7年連続の黒字決算をしながらも、9年連続ベアゼロに抑えられてきた、貨物の賃金引き上げを、労資一体となつて何としても実現しなければなりません。

今年は間違いなく解散総選挙が行われる状況にあります。今の政治経済を見れば、どこから見ても政権交代が求められています。反自民を明確にし、革新政党の躍進のために、一人ひとりの組合員と家族が投票行動に参加しましょう。そのことが、採用差別事件の解決に大きく影響することは間違いありません。

皆さんの一年間のご多幸を願い、総団結によって諸課題の前進を勝ち取るために、地方本部が先頭に立ち、奮闘する決意を申し上げます。新年の挨拶といたします。



新年を「ご家族お揃いで迎えられたこと」だと思います。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

一点目は、JR不採用問題の早期解決についてであります。この闘いも23年目に入ろうとしています。

昨年の7月以降、解決に向けての動きが出てきましたが、政局の不安定な状況もあって「足止め状態」におかれています。志半ばで他界した闘争団員も45名になつていきます。

予想される総選挙での野党勢力の拡大を図り、闘争団員が納得できる解決を一日も早く実現してゆきましょう。

二点目は、職場の労働条件改善についてです。職場は、相次ぐ合理化によって系統を問わず業務に追われている状況にあると思います。そうした中で、営業職場を中心に健康破壊が進んできています。

社会の主人公である私たちが健康で安心して働き続けなければ、「鉄道の安全・安定輸送」にも支障が出てきます。職場の労働条件改善に向けて共に運動してゆきましょう。

三点目は、組織の強化・拡大についてです。国労にとって重要な課題でもあります。労働条件改善の運動とも共通する点でもありますが、職場の色々な問題をみんなで議論し、要求をつ



福島県支部  
小檜山執行委員長



「社員の声を表して話したい」という取り組みは多くの分会で実施され、風呂場やトイレなど改善の規模は小さいものでしたが運動としては大きな前進がありました。また、郡山駅連分会と仙台駅連分会の「仲間を思いやる」粘り強い関わりが結実し、県支部待望の組織拡大が実現しました。

今年も、「また一人拡大」の報告が聞けるよう組織強化・拡大に取り組みたいと思います。

さて、JR東日本では重大な輸送障害や死傷事故が多発し「非常事態宣言」を発動しなければならぬ深刻な状況になっています。原則線路閉鎖をはじめ複雑化するルールは、「効率化」「コスト削減」という請負会社の論理とは相反するものであり、輸送業務の最大の使命であるはずの安全は「本音と建て前」の間で大きく揺れ動いているのが実態です。

また、外注関連労働者とJR本体の労働実態の格差は否定できません。貨物の仲間との格差も拡大しています。輸送の安全や労働条件の改善、健康を守る為に関連労働者も含めた全職場全組合員で問題を「共有化する」運動が求められています。

今、日本中の企業で働く非正規雇用・派遣労働者が首切り攻撃を受け、今後大量の労働者が路頭に放り出されようとしています。「正規雇用と非正規雇用」あるいは「公務員と民間」という、私たちの心の中に作られたこの壁を取り払い連帯することなくして政治が本腰をあげることはあり

得ないと思います。

来る総選挙では是が非でも政権交代を実現しなければなりません。そして09春闘は、「働く者が人として扱われる社会」の回復にむけての闘いとなります。今年も職場改善の国労をアピールし諸課題の前進に邁進しましょう。

### 山形県支部 原田執行委員長



新年明けましておめでとうございます。

今、日本は格差社会が大きな社会問題となつています。しかし、今こそ立ち上がらなければならぬ労働組合が手く見えてきません。秋葉原での17人を殺傷した事件のきっかけは作業服がないことから、解雇になるのではないかとという不安からでした。この時、そこにいた労働組合員が会社と一緒にいなければあんな痛ましい事件は起きなかつたかもしれません。ここにも労働組合が見えています。

国労は、こうしたことに学び、職場や地域での運動をもう一度振り返り、闘いを強化していかなければなりません。このことは、格差社会の原点が、国鉄「分割・民営化」の過程で行われた国労潰しの不当労働行為であり、中曽根元総理大臣の言葉にも表れています。今年こそ1047名の不

採用事件の早期解決を勝ち取り、国労組織の強化・拡大を前進させ、総選挙闘争に勝利しなければなりません。そのための条件は、この間の国労自らの闘いの中で私たちが作り上げてきたということに自信と確信を持つて共に奮闘しましょう。

### 仙台総合車両所支部 庄司執行委員長



新年明けましておめでとうございます。今年も仙総支部をよろしく願います。

私たちの職場では東北新幹線の青森開業に向けて、着々と準備が進められています。運行が実現すれば、営業速度の最高が時速300kmを超え、新幹線の高速度化が進むこととなります。近年、JR東日本において、車両故障を含めた輸送被害が多発し、注目を集め、批判を受けている中で、益々高速化する新幹線の安全・安定輸送の達成は、私たちの重要な課題です。私たちは机上の計算や、会社の経営の論理に流されることなく、直接車両を扱っている労働者としての視点に立ち、車両の安全を追求していくことの重要性について年頭に当たり強くかみしめていくところとします。

そして車両の安全のみならず、現場で働く全ての労働者の安まらんと守つていかなければなりません。現在、会社が非常事態と

認めている極めて深刻な状況をふまえ、単に「ルールを守れ」だけではすまされません。職場環境や労働実態をしっかりと検証し改善につなげる運動に全力をあげて取り組んでいきたいと思っています。

また、こうした取り組みを大きく広げていくためにも、国労組織の強化・拡大を図らなければなりません。拡大については、機関をあげて進めてきましたが、この数年間実現していません。しかし、定期大会以降、行動する組合員・分会を支える体制について整ってきています。今年こそ新たな仲間を加えるべく奮闘していきたいと思っています。

JR不採用問題の闘いは、私が申し上げるまでもなく、この春までの闘いがかつてない重要な意味を持つものと思います。仙総支部も組織に集中し主力で闘います。最後に、この一年がすばらしい年であることを念じ、新年の挨拶といたします。共に頑張りましょう。

郡山工場支部  
橋本執行委員長



新年明けましておめでとうございます。

冒頭ご報告と御礼を申し上げますが、当支部組合員でありました故佐久間信広さんの遺族支援金の取り組みに際しては、仙台地方本部組合員の皆さんと他労組

組合員のご支援とご協力により、遺族の方に手渡すことができました。ご遺族に代わりまして深く御礼を申し上げます。

さて、一点目はJRの職場実態についてです。郡山総合車両センターでは車両メンテナンス合理化が実施され、非常に時間に余裕の無い働かされ方になっています。時間には追われ、あせりながらの作業で、かつ十分な教育が施されないまま作業をさせられており、いつミスや事故があっても不思議ではない働かされ方になっています。郡山支部は、ヒューマンエラーは本人の問題ではなく会社の施策に問題があるとして、団交の場で職場改善要求と教育問題で改善を求めてきました。

しかし、支社は「教育は実施する」と言っているにもかかわらず、現場では実施されていないなど、多くの問題点や課題があります。今後、働きやすい職場を確立するため、精一杯取り組んでいきます。

一点目はJR不採用問題についてです。現在国労は4者4団体で団結して、早期解決に向けて取り組んでいます。これについては郡山支部も議論をし、多様な意見も出されましたが、4者4団体が一致できたことは評価できると考えています。これから解決を具体的に進めていく上で、当事者は判断を迫られ、大変な状況も予想されますが、闘争団の仲間が納得のいく早期解決に向け共に闘っていき

たいと思っています。三点目は、解散総選挙についてです。現在、年金問題が国民の関心ごとの一つ

になっていますが、「掛け金を払っても年金がほとんど支給されないんじゃないか」「65歳ではなくて、70歳からの支給になるのでは」など不安な声を耳にします。

政府の規制緩和によって、派遣社員や非正規雇用者が増え、厚生年金から天引きされ、ますます年金生活が困難になっています。このような制度を早急に改めさせるためにも、本年に実施される総選挙の取り組みを強化したいと考えています。政治不信が続く、投票所に足が遠のきがちですが、棄権せず投票してもらおうことを、ご家族にもお願いしていただきます。

最後に、JR会社間格差是正についてです。この間、貨物会社は国労の要求1万円に対し、9年間連続のベアゼロ回答を行い、また年末手当についても、東日本会社が3・22ヶ月、貨物会社は2ヶ月という格差の付いた超低額回答でした。12月1日の抗議集会では各分会から切実な生活実態が報告され、会社に抗議をしてきました。これから会社間の格差是正を求め、貨物の仲間と一緒に頑張っていきたいと思っています。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

### 東北自動車支部 大倉執行委員長



組合員・ご家族の皆さま

新年おめでとうございます。皆様方には、希望に満ちた新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

さて、アメリカで発生した「金融危機」により世界経済が急速に悪化しています。昨年末には、自動車産業の相次ぐ減産や操業の停止などにより請負や派遣労働者の「解雇」問題が、参議院厚生労働委員会でも取り上げられています。

これらの問題は、全産業にまで影響し「一時帰休や退職強要」など、労働者に犠牲を強いる「資本の論理」の貫徹が横行され、社員寮や社宅を追い出され年末年始を迎えなければならぬ状況にまで及んでおり、まさに世界同時恐慌の様相を呈しています。

自動車支部の仲間は「差別・選別」の無い職場づくりと「働きがいのあるバス職場」、そしてモノが言える職場づくりを目指すことを支部全員で取組み、「もう一人の自分を創ろう！」を合言葉に組織の拡大を支部全員で確認し合い闘ってきた結果、昨年十二月一日に一人の仲間を国労に迎えることが出来ました。秋田支店所属のバス社員・兜森さんが、自分達の扱われ様に対し、モノが言える、言い合える組合に賛同し、加入を決意されました。

バス社員を組合員に迎えた事で国労運動の正しさに自信を持ち、これからの勇気を持って加人を呼びかけ、安心して働き続けられる職場作りの為に、国労がその先頭に立って「総団結」で今年も頑張つて闘って行

きましょう。